

長女の陽子さんと次女の純子さんは二卵性の双子（20歳）、三女の知慧子さんはその7つ下の中学生。その3人が口を揃えて言うのです。

「お父さんはカッコイイ、最高よ！」

ストーンズやドアーズなど60年代から70年代を揺るがした、世界的なロック・グループはもちろん、最近のロックミュージシャンのことにまで精通している彼女たちにとって、シーナ&ザ・ロケッツを越えるものは、未だ登場していないのです。「ステージの父や母を見ていると、一ファンの視点になれてしまう」

と、陽子さん。そして、他のふたりも相槌を打つのです。

「ありのままで生きてる、って感じ。そしてそれが父の考えそのものでもあるので、私たちも自分の気持ちにまっすぐじゃないといけないと思う」

勉強しなさいなどと、小言を言われることはなく、自分の気持ちに素直になれない時などはその点を鋭く鮎川さんに指摘されることもあるそうです。

「例えば、美しい花を見た時に素直に感動できる心を持つことは大切だ」

と、娘さんたちにとって鮎川さんは、なかなかに厳しい存在の様子ですが……

「でもね、お父さんが怖くなってきたら家庭も成り立たないと思うし、その分、どんな時でも責任を持って家族を守ってほしい」とする姿は、やっぱり男らしいし、頼もしい」

と、公私にわたって全面的に父親賛歌を「大合唱」の三人娘。最近ではアイデアを出し合って、父のコンサートのチラシをつくることもあるそうで、それを下北沢あたりの飲食店にせつせと配ったりもするそうです。

彼女たちは、今、最も美しい、最大、最強の鮎川さんの「応援団」と言えそうです。

お姉さんたちの革ジャン姿は、憧れだった。でも、お古や借り物はイヤ。自分の革ジャンが欲しかったから、13歳のバース・デイにももらったお父さんのシカゴみやげの革ジャンは、私にとっての最高の贈り物になった。（知慧子）



ステージでお父さんがありのままに話をすると、みんなニコニコ笑う。

それはあまりに自然体の姿だから、みんなホツとして思わず微笑む。

そこがとつてもカッコイイと思うんです。

鮎川陽子・純子・知慧子

堂々とロックを

やるために、大学生活は最適。

そして妻であり

パートナーとなった

シーナは、幸福の女神。

鮎川誠氏は48年福岡県久留米市生まれ。九州大学の農学部に入学したのは、「ロックをやる口実」。学生生活はロックに思う存分熱中してきたそうです。プロをめざすようになり、その頃、運命的なシーナさんとの出会いが生まれます。サンハウスというバンドで活動していた折シーナがひとり演奏中の店内に入ってきたその日のことを、鮎川さんは、未だに忘れられないといいます。ライブ終了後音楽についてお互いに熱弁をふるい意気投合。そして4年後に結婚。その2年後に陽子さんと純子さんの双子が誕生します。

大きなチャンスと変化が訪れたのは78年。そろそろ東京でも活動を、との一念で、ギター一本もって上京した鮎川さんに運命の女神が、微笑みました。上京後一週間で仕事に出会い、しかも、後を追って上京してきたシーナのボーカルのポジションあればこそ、シーナ&ザ・ロケッツの誕生となったのです。そして初仕事には、来日した英国ミュージシャン、エルビス・コストロのコンサートでのオープニング・アクトの座を手に入れます。それが78年11月23日。偶然シーナのバース・デイとも重なり、忘れようのない一生の記念日となりました。この仕事こそ、シーナ&ザ・ロケッツを世に知らしめ、同時に自らを成長させることとなったきっかけでした。コストロのバンドの技術や演出力にじかに触れたことで、それまで頭デッカチであったロックから脱皮、本物の、感覚で創るロックを目指す方向性へと生まれ変わることができたのだと鮎川氏は、当時を振り返り語ります。

83年、末娘の知慧子さんが誕生。それまで九州を拠点に活動していた鮎川一家は、東京に移り住みます。以来、13枚のアルバムをリリース、現在は14枚目も制作中。今年の暮には著書も出版予定。音楽は人間そのもの、という鮎川さんの今後の活動は、今改めて若い層から同世代の男性諸氏にまで大きな夢と活力を与えてくれることでしょう。